

専門学校読売自動車大学校

学校関係者評価 報告

「平成 27 年度」

平成 28 年 9 月 1 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業等役職員等の学校関係者を選任し、学校が実施した平成 27 年度における自己点検評価の結果に関する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。

なお、評価の観点は次の項目による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切であるかどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切かどうか

2. 学校関係者評価委員会の実施

平成 27 年度の「自己評価報告書」を、学校関係者委員に事前に送付した上で委員会を開催し、ご意見・ご提案を頂いた。また、委員の皆様には基準項目毎に 4 段階で評価頂き、その結果も含め報告書としてまとめた。尚、今回は昨年度の結果についての評価や課題の提起を行い、平成 27 年度第 2 回委員会では 27 年度の間評価と次年度への取り組み課題等の討議を行った。

<平成 27 年度 第 2 回>

開催日時：平成 27 年 11 月 19 日（木）17：00～18：00

場 所：校長室

<平成 28 年度 第 1 回>

開催日時：平成 28 年 7 月 21 日（木）17：00～18：00

場 所：校長室

3. 学校関係者評価委員会委員の出席者

① 学校関係者評価委員

- ・松本 等：卒業生 読売理工専校友会 会長（欠席）
- ・原田 友子：保護者 1 級整備学科 2 年生在学
- ・齋藤 春男：地域住民 亀戸 2 丁目町会 会長
- ・佐藤 広：企業等 (株)関東マツダ
- ・今井 一之：企業等 (株)関東マツダ

（敬称略・順不同）

② 学校側参加者

- ・千葉 康文：理事長
- ・天野 誠一：法人本部長
- ・榎本 俊弥：校長
- ・大宮 律雄：事務局長
- ・渡辺 宜男：自動車整備学科 学科長
- ・北村 眞一：1 級整備学科 学科長
- ・鈴木雄一郎：教務委員長

4. 学校関係者意見・提案（評価点）

平成 27 年度 学校関係者評価

基準 1 教育理念（3.66）

- ・ 1 級課程の卒業者は二級課程で求められる整備士としての基礎能力と、一級課程で必要な総合的な応用能力を確実に身に付けた人材を育成する体制とする。
- ・ 職業教育に関する中教審の審議内容を確認後、御校の教育目標と設立趣意を踏まえて再度検証の必要性有りと思われる。

基準 2 学校運営（3.66）

- ・ 校内美化 5 ヶ年計画を基に、きめ細かい環境対策を講じていく。
- ・ 快適に学べる魅力的な学校づくりをめざし、早急に「校内美化 5 ヶ年計画」を実施し、進めて頂きたい。

基準 3 教育活動（3.33）

- ・ 資格取得はもちろんであるが、入社直後に必要とされる頻度の高い作業について、理解を深め、体得し、早期戦力になりうる基盤づくりを行って頂きたい。
- ・ 個々の職員が、各自で資質を向上させる努力が必要。併せて企業ニーズに合ったカリキュラムを取り入れていく必要がある。

基準 4 学修成果（3.00）

- ・ 教育に携わる人員体制の見直しも含めて、資格合格率向上の改善策を練っていく必要がある。
- ・ 資格取得はもちろんであるが、入社直後に必要とされる頻度の高い作業について、理解を深め、体得し、早期戦力になりうる基盤づくりして頂きたい。

基準 5 学生支援（3.33）

- ・ 快適に学べる魅力的な学校づくりをめざし、早急に「校内美化 5 ヶ年計画」し、進めて頂きたい。
- ・ 教員が外部の研修に積極的に参加し、業界の情報を得てカリキュラムに反映させる。

基準 6 教育環境（3.50）

- ・ スペースの有効活用の為、不用品の廃棄、外部倉庫の利用、同時に実施する実習内容の検討

基準 7 学生の受け入れ募集（3.66）

- ・ 学校の魅力を伝える事と併せて、自動車整備士の魅力や、やりがい、将来性について理解してもらえるように話す内容を工夫する。

- ・2018年問題を控え、募集については大変ご苦勞されていると思うが、データーで採用する対象としての留学生については言葉と文化の違い、更に、価値観の違いが大きな問題となっている。中国の方はかなり裕福な方が多いように感じられる。

基準 8 財務 (4.00)

- ・貸し教室などの収益事業をさらに強化し、支出項目については、相見積もりの徹底を実施し、いっそうの経費削減を図る。

基準 9 法令等の遵守 (4.00)

- ・問題なし
- ・学校での危機管理の重要性について、所属長を中心に、全職員の自覚を求めていく。

基準 10 社会貢献・地域貢献 (3.00)

- ・自動車業界の発信基地としての活動を多く設けるとともに、地域貢献の一環としていろいろな行事にも参加協力をする必要があると思われる。
- ・社会人に必要なモラル、マナー、法令順守はもちろんのこと、社会への貢献を常に念頭に置き学生への指導及び教職員取り組み事項として考えていく。

基準 11 国際交流 (3.33)

- ・今後の業界の労働力確保のためにも、必要なことで、力を入れる必要があると理解はしている。
- ・留学生の入学選考において、日本語能力を適正に測定し、面接試験で、能力評価や就職の適正などを厳正に評価する。

平成 28 年度 の 取組 状 況

- ・昨今、企業では、作業時間を含め、管理体制が非常によくなっているが OJT に費やす時間確保が難しくなっている。社内研修時間の確保を多くしてはいるが、学校での学ぶ基礎力が不可欠であるため、試験で完結するのではなく継続理解させ実践でも役立つような指導をお願いしたい。
- ・上記、改善施策を確実に実施すること。

まとめ

委員の方々のご意見・ご提案を参考として、今年度及び来年度に向けた検討を行う。

以上